



変わる時代の確かな視点

News Release

「第8回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」のご案内

株式会社ニッセイ基礎研究所では、3月下旬に全国の20～74歳の男女2,584名に対して、新型コロナウイルスワクチンの追加(三回目)接種や子ども(5～11歳)のワクチン接種状況、コロナ禍をきっかけに高まっていると見られるサステナビリティに関する意識、そして、継続的に捉えている行動変容や不安感について調査致しました。

調査時点では約半数がワクチンの追加接種を終え、予約済みなどもあわせた積極層は7割を超えます。一方、子どもの接種率は約1割で、接種させたくない、あるいは様子を見たいと考える保護者が合計約7割を占めます。

サステナビリティに関する意識については、地球環境や社会問題に危機意識を持つ割合は約6割に上りますが、半数以上はボランティアなどの具体的な行動には移せていません。また、日ごろの消費行動では、エコバッグの持参は約8割、ゴミの分別や洗剤などの詰め替え製品の購入は半数以上が実施していますが、現在のところ、価格よりもサステナビリティを優先して製品を買う人は1割未満です。

そして、コロナ禍3年目となり、巣ごもり需要による買い物手段のデジタルシフトや外食の中食シフトなどの進行は鈍化しています。ただし、調査時点では、まん延防止等重点措置は解除されていましたが、オミクロン株による感染者数は高水準にある中で、店舗での買い物や外食を控える傾向は年末と比べてやや強まっています。また、友人との距離が広がることなど人間関係の不安は強まり続けており、少子化の更なる進行も懸念されています。

なお、ニッセイ基礎研究所では、今後も変化を追跡するために継続して調査を実施する予定です。

<調査結果のポイント>

- ✓ ワクチンの追加(三回目)接種完了率は47.5%、予約済みなどもあわせた積極層は75.1%
- ✓ 子ども(5～11歳)の接種率は9.5%にとどまり、消極層(42.4%)や様子見層(24.6%)が目立つ
- ✓ 子どもの接種に消極的な理由は「副反応の心配」(62.3%)や「将来的な安全性への懸念」(48.2%)など
- ✓ 地球環境や社会問題に危機意識を持つ割合は60.8%だが、半数以上は具体的な行動には移せていない
- ✓ 日頃の消費生活でエコバッグの持参は77.2%、ゴミの分別は57.1%、詰め替え製品の購入は52.4%が実施
- ✓ コロナ禍で目立ったネットショッピングやキャッシュレス決済、食のデリバリーサービスなどの利用増加傾向は鈍化
- ✓ ただし、オミクロン株による感染拡大により、店舗での買い物や外食を控える傾向は年末よりやや強まっている
- ✓ 友人との距離が広がる不安は33.1%、新たな出会いが減る不安は24.9%を占め、強まり続けている

調査結果の概要は[こちら](#)から

この件に関するお問い合わせ
ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」担当 久我・井上
pr_corona@nli-research.co.jp
Tel.03-3512-1800
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | www.nli-research.co.jp



RESEARCH

株式会社ニッセイ基礎研究所 102-0073 東京都千代田区九段北4-1-7 | Tel.03-3512-1800 [代表] | Fax.03-5211-1058 | www.nli-research.co.jp